

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業428社を対象に実施し、365社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成20年4月～6月の実績、平成20年7月～9月の見込み、平成20年10月～12月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成20年6月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	179	89.9%
非 製 造 業	225	189	84.0%
計	424	368	86.8%

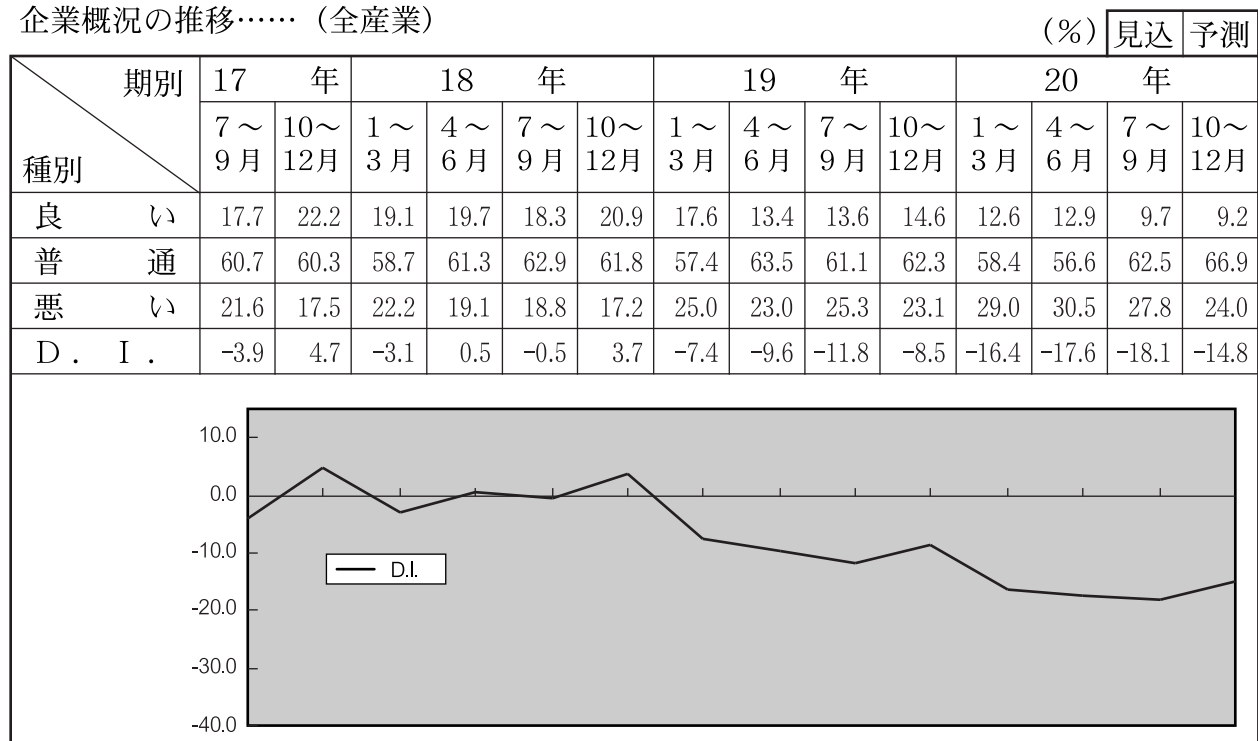
日銀が7月3日に公表した、北陸の金融経済月報（2008年7月）によると、北陸の景気は、「輸出が増加を続けているものの、エネルギー・原材料価格高の影響などから、減速感が幾分増している。

最終需要をみると、輸出は増勢がやや鈍化しつつも、増加を続けている。設備投資は高水準の投資を継続してきたこともあって、このところ一服感がうかがわれる。個人消費は弱含んでいる。公共投資や住宅投資は前年を下回っている。

先行きについては、海外経済やエネルギー・原材料価格の動向等が実態経済に与える影響を見極めていく必要がある。」としている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

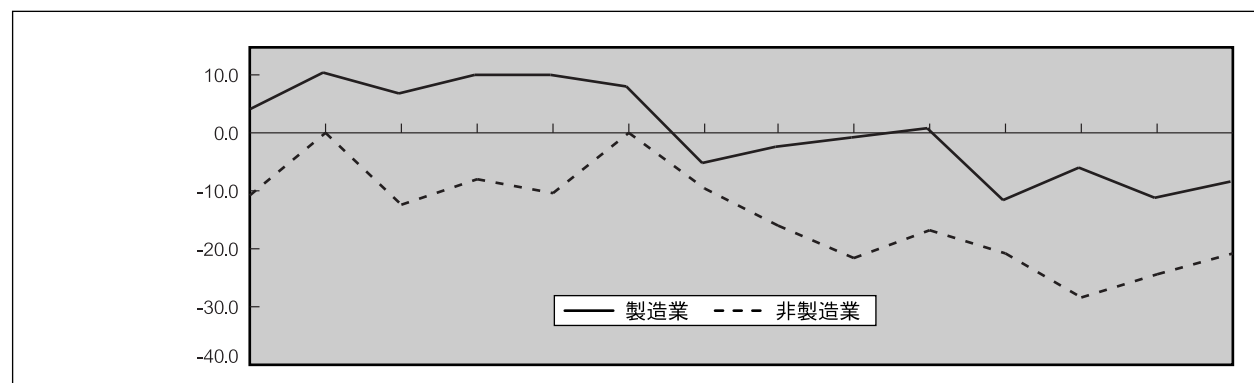


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	21.5	25.3	23.9	25.7	24.5	22.4	18.1	16.7	20.0	19.9	14.6	16.3	11.4	9.2
普	通	60.8	59.5	58.9	58.6	60.9	62.8	58.5	64.0	58.9	60.8	59.1	61.2	65.7	73.0
悪	い	17.7	15.3	17.3	15.7	14.6	14.8	23.4	19.4	21.1	19.4	26.3	22.5	22.9	17.8
D . I .		3.8	10.0	6.6	9.9	9.9	7.7	-5.3	-2.7	-1.1	0.5	-11.7	-6.2	-11.4	-8.6

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	14.4	19.4	14.6	14.3	12.6	19.5	17.1	10.5	7.8	9.8	10.8	9.7	8.1	9.2
普	通	60.6	61.1	58.5	63.6	64.7	61.0	56.5	63.2	63.1	63.7	57.7	52.2	59.5	61.1
悪	い	25.0	19.4	26.9	22.1	22.7	19.5	26.4	26.3	29.1	26.5	31.4	38.2	32.4	29.7
D . I .		-10.6	0.0	-12.3	-7.8	-10.1	0.0	-9.3	-15.8	-21.4	-16.7	-20.6	-28.5	-24.3	-20.8



- (1) こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ても、業況判断指数 D.I.「良い－悪い」は、20年4～6月期実績は▲17.6と前期比1.2ポイント悪化した。

先行きについて、20年7～9月期のD.I.は、今期比0.5ポイント悪化する見込となっている。しかし、10月～12月の予想では、D.I.はマイナスであるが、やや改善予測となっている。

- (2) 業況判断指数D.I.の20年4～6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期よりマイナスである。非製造業は前期より7.9ポイント悪化した。

先行きについてのD.I.は製造業は、悪化見込みであるが、非製造業については、改善見込となっている。D.I.はマイナスが大きく20ポイント以上で推移している。

製造業の業況判断指数D.I.は、先行きの20年7～9月期見込を▲11.4と5.2ポイント悪化見込となっている。しかし、20年10～12月期をマイナスD.I.であるが改善予想をしている。非製造業の業況判断指数D.I.は、20年7～9月期予想は▲24.3とマイナスであるが改善見込となっている。20年10～12月期はさらに改善見込になっている。

Ⅱ．売上高状況

売上高状況

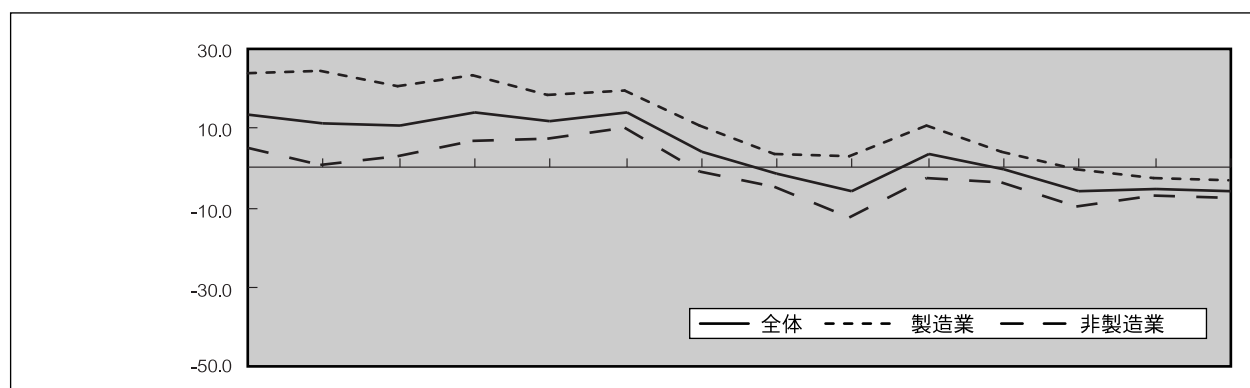
		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
増 加		36.4	35.4	35.0	35.0	33.8	36.0	31.6	28.5	26.0	31.5	30.1	26.5	21.1	19.4
横 ば い		40.6	40.5	40.9	44.3	44.4	42.1	40.7	41.7	42.2	40.4	39.2	41.2	52.3	55.5
減 少		23.1	24.1	24.1	20.8	21.8	21.9	27.7	29.8	31.8	28.2	30.7	31.6	26.6	25.2
D . I .		13.3	11.2	10.9	14.2	11.9	14.1	3.9	-1.2	-5.9	3.3	-0.5	-5.7	-5.4	-5.7

売上高状況（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
増 加		43.8	43.1	41.4	39.2	38.0	39.9	34.7	31.6	31.0	36.5	34.0	30.6	21.7	19.8
横 ば い		35.8	37.8	37.4	44.5	41.7	39.4	40.5	40.0	40.2	37.1	3.5	37.8	53.3	57.1
減 少		20.3	19.1	21.2	16.2	20.3	20.7	24.8	28.5	28.8	26.3	30.4	31.7	25.0	23.1
D . I .		23.5	23.9	20.2	23.0	17.7	19.2	10.0	3.2	2.2	10.2	3.5	-1.1	-3.3	-3.4

売上高状況（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
増 加		30.2	28.5	29.1	31.2	29.8	32.4	28.9	25.8	21.4	26.9	26.8	22.8	20.6	19.1
横 ば い		44.2	43.0	44.1	44.0	46.9	44.6	40.8	43.2	43.9	43.3	42.3	44.4	51.3	54.0
減 少		25.6	28.5	26.8	24.8	23.2	23.0	30.3	31.0	34.6	29.8	30.9	32.8	28.1	27.0
D . I .		4.7	0.0	2.3	6.4	6.6	9.4	-1.4	-5.2	-13.2	-2.9	-4.1	-10.1	-7.4	-7.9



- 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。全産業の売上高状況D.I.は、前期より悪化してきており、今回調査では、前期より更に悪化し▲5.7と5.2ポイント悪化した結果となった。先行きについて、7～9月期マイナスの横ばい予想となっており、10～12月期も同様の予想となっている。
- 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けてみると、製造業は悪化傾向となっており、今期よりマイナスポイントとなり、先行きも悪化予想となっている。非製造業のD.I.もマイナスとなり悪化している。今期調査では、▲10.1と6ポイント悪化している。先行きについては改善するがマイナスが続く予想となっている。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

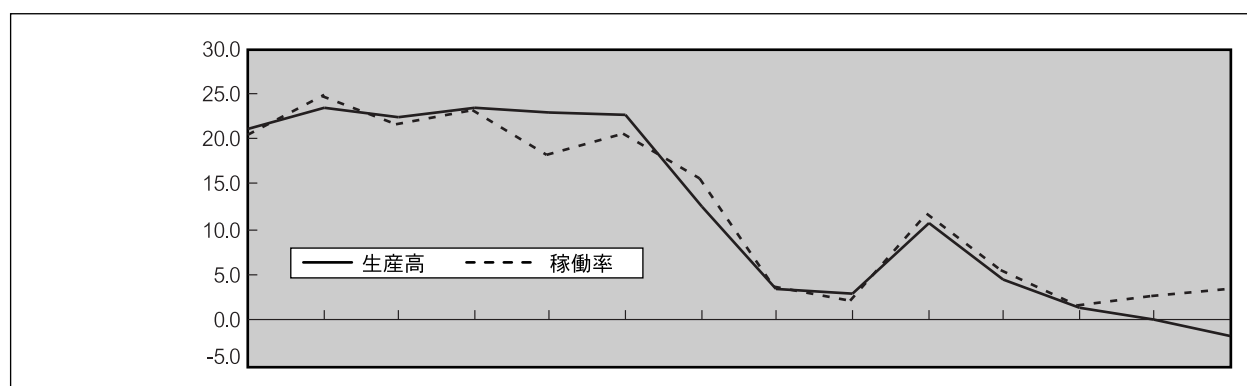
(%) 見込 予測

期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
20%以上増加	9.9	12.5	11.7	7.6	10.7	8.4	6.5	4.4	8.1	7.9	4.4	5.9	2.4	1.2
20%未満増加	30.4	28.3	28.1	32.1	28.3	31.6	27.2	26.4	21.4	27.5	28.8	24.1	20.0	19.5
横ばい状況	40.3	41.8	42.9	44.0	44.9	42.6	45.1	41.8	43.9	39.9	38.1	41.2	55.3	56.8
20%未満減少	18.8	15.2	16.8	13.6	14.4	17.4	19.0	24.2	23.1	21.3	25.6	26.5	20.6	20.1
20%以上減少	0.6	2.2	0.5	2.7	1.6	0.0	2.2	3.3	3.5	3.4	3.1	2.4	1.8	2.4
D . I .	21.0	23.4	22.4	23.4	23.0	22.6	12.5	3.3	2.9	10.7	4.4	1.2	0.0	-1.8

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
上 昇	11.7	13.3	12.0	8.2	9.3	5.9	5.1	5.6	5.9	6.9	4.6	7.2	3.6	2.4
やや上昇	23.9	25.6	27.2	28.4	25.1	31.2	28.2	20.8	18.9	25.3	27.8	21.7	19.3	18.7
横ばい	48.9	46.7	42.9	49.7	49.2	46.2	48.6	50.6	52.1	47.1	40.4	43.4	56.6	60.8
やや下降	13.3	13.9	15.2	11.5	15.8	16.7	16.9	20.8	18.3	17.8	23.8	25.3	18.1	16.3
下 降	2.2	0.6	2.6	2.2	0.5	0.0	1.1	2.2	4.7	2.9	3.3	2.4	2.4	1.8
D . I .	20.0	24.4	21.5	23.0	18.0	20.4	15.3	3.4	1.8	11.5	5.3	1.2	2.4	3.0



- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.「増加－減少」は、10～12月期改善していたが、前期より、悪化してきている。今期は1.2と前期より3.2ポイント悪化した。

先行きについても、悪化していく予想となっている。

- (2) 稼働率状況D.I.も、生産高同様に10～12月期後悪化してきている。4～6月期は1.2まで低下した。17年以降最低のポイントとなった。下降との回答が増加している。稼働率の先行きは、改善ポイントは低い改善予想となっている。

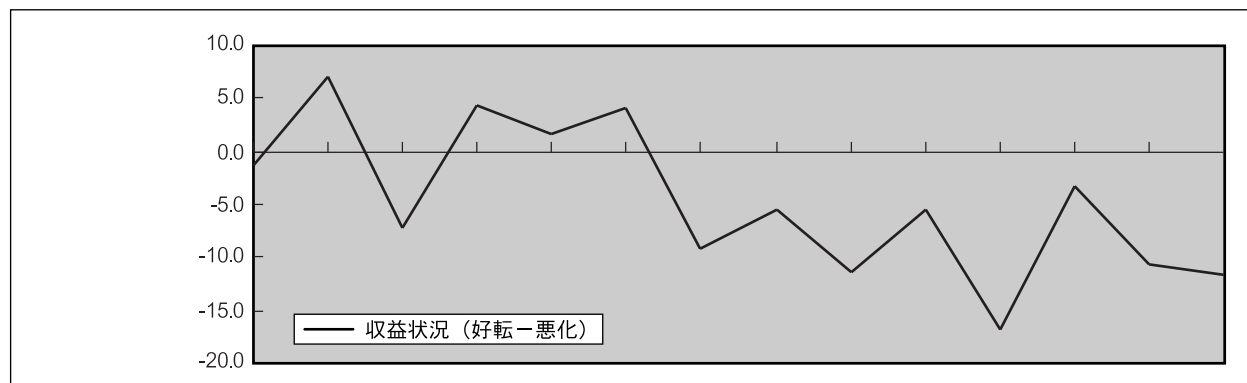
先行きでは、横ばいを予想する回答が増加している。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	21.0	23.5	18.6	23.8	18.4	23.2	19.2	16.6	12.4	18.5	16.1	20.1	14.0	13.0
横 ば い	56.8	60.0	55.6	56.9	64.9	57.7	52.5	61.3	63.9	57.5	50.8	56.5	61.3	62.4
悪 化	22.2	16.5	25.7	19.1	16.7	19.1	28.4	22.1	23.7	24.1	33.1	23.4	24.7	24.6
D . I .	-1.2	7.0	-7.1	4.4	1.7	4.2	-9.2	-5.5	-11.3	-5.6	-16.9	-3.3	-10.7	-11.6



好転理由

(%) 見込 予測

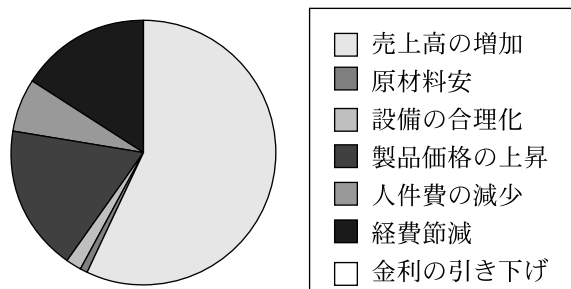
期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の増加	65.5	69.1	56.3	64.6	61.9	61.5	69.4	61.4	66.2	64.4	58.9	57.0	58.9	53.6
原 材 料 安	2.6	2.7	7.1	2.4	6.2	4.9	3.1	1.1	1.5	2.3	2.2	0.9	0.0	1.4
設備の合理化	2.6	1.8	2.7	2.4	4.1	2.5	4.1	4.5	3.1	2.3	2.2	1.9	0.0	4.3
製品価格の上昇	7.8	4.5	12.5	9.4	9.3	10.7	6.1	6.8	7.7	6.9	14.4	17.8	17.8	17.3
人件費の減少	6.9	5.5	1.8	2.4	6.2	5.7	6.1	3.4	3.1	6.9	5.6	6.5	5.5	4.3
経 費 節 減	14.7	16.4	16.1	17.3	12.4	14.8	11.2	21.6	16.9	16.1	13.3	15.9	16.4	17.4
金利の引き下げ	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.1	1.5	1.1	3.3	0.0	1.4	1.4

悪化理由

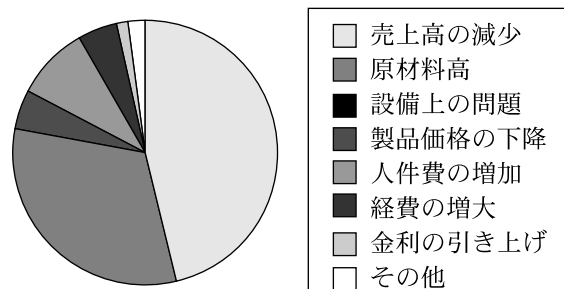
(%) 見込 予測

期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の減少	48.4	41.8	57.5	38.9	35.4	40.7	55.7	47.2	17.6	48.0	53.0	46.2	41.6	40.6
原 材 料 高	19.8	20.4	19.4	24.1	28.1	20.3	18.4	25.0	21.0	26.3	29.2	31.7	34.2	35.2
設備上の問題	3.2	0.0	0.7	2.8	1.0	2.5	0.0	1.4	2.1	1.3	0.0	0.0	1.9	2.4
製品価格の下降	8.7	7.1	6.7	7.4	10.4	8.5	5.1	6.9	11.9	5.3	4.8	4.8	6.2	6.7
経 費 の 増 大	9.5	11.2	2.2	5.6	15.6	10.2	7.0	10.4	10.5	11.8	5.4	9.0	8.7	10.3
人件費の増加	5.6	8.2	9.7	12.0	4.2	8.5	6.3	2.8	4.2	5.3	5.4	4.8	5.0	3.0
金利の引き上げ	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	1.7	2.5	2.8	0.0	0.0	0.6	1.4	1.9	1.8
そ の 他	4.8	11.2	3.0	9.3	4.2	7.6	5.1	3.5	2.8	2.0	1.8	2.1	0.6	0.0

好転理由



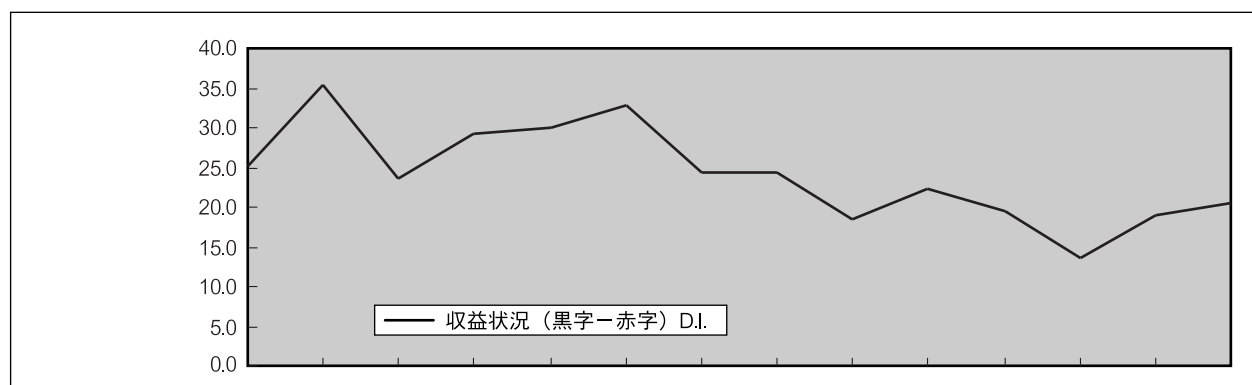
悪化理由



- (1) 4～6月期収益状況「好転－悪化」D.I.は、▲3.3と前期比13.6ポイント改善した。先行きについては、20年7～9月期D.I.は悪化を予想している。10～12月期もやや悪化予想となっており、低下傾向の予想となっている。
- (2) 「収益状況が好転した」理由、4～6月期実績は、①売上高の増加、②製品価格の上昇③経費削減の順になった。前期と同じ順位で、売上高の増加がトップとなっている。先行きでも、「売上高の増加」が大幅な理由となっており、「製品価格の上昇」が次に高い理由となっている。
- (3) 「収益状況が悪化した」理由、4～6月期実績は、①売上高の減少、②原材料高となった。原材料高とするポイントが大幅に増加し、30％以上となっている。売上高減少を理由とする、ポイントが減少してきている。先行きについても、原材料高を理由とする企業が増加傾向である。7～9月期は34.2％、10～12月期は35.2％と30％を超すポイントとなった。好転理由として、売上高の増加が半数を占める反面、悪化理由として売上高減少とするポイントも高い。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	17 年		18 年				19 年				20 年				(%)	見込	予測
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月			
黒 字	44.1	48.5	44.4	43.8	44.6	48.5	43.5	43.0	38.3	41.9	39.1	34.7	34.5	33.7			
収支トントン	37.0	38.3	34.9	41.6	40.8	35.7	37.3	38.4	41.9	38.6	41.3	44.1	49.9	53.2			
償却後赤字	18.9	13.2	20.7	14.6	14.6	15.8	19.3	18.6	19.8	19.5	19.7	21.2	15.6	13.2			
D . I .	25.2	35.3	23.7	29.2	30.0	32.8	24.3	24.4	18.5	22.4	19.4	13.5	18.9	20.5			



- (4)収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、19年1～3月期より低下してきている。20年4～6月期も13.5と前期比5.9ポイント悪化となった。先行きについては改善していく、見込となっている。

黒字とするポイントが低下しており、収支トントンとの回答ポイントが増加している。赤字とのポイントは、今期21.2と高いポイントとなった。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

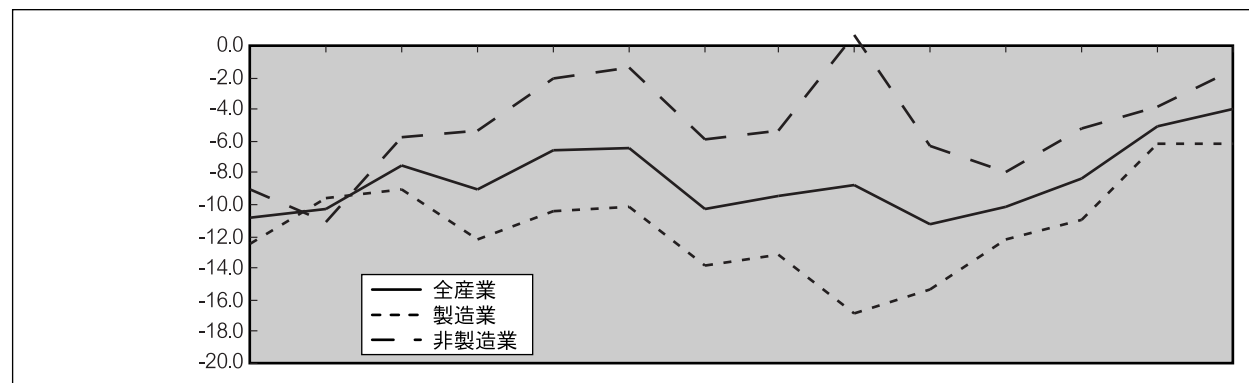
		(%)												見込	予測
期別 種別		17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		3.6	3.3	3.2	3.6	3.9	3.6	2.4	2.8	4.4	1.6	1.7	2.7	3.4	2.3
適 正		81.9	83.0	86.0	83.8	85.5	86.4	84.9	84.9	82.6	85.5	86.3	86.2	88.2	91.3
過 剰		14.5	13.6	10.8	12.6	10.6	10.0	12.7	12.3	13.1	12.9	11.9	11.1	8.4	6.4
D . I .		-10.8	-10.3	-7.6	-9.0	-6.6	-6.4	-10.3	-9.5	-8.7	-11.3	-10.2	-8.4	-5.1	-4.0

製品在庫水準（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
期別 種別		17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		4.0	4.5	4.3	3.9	3.3	3.7	1.1	2.3	2.3	1.1	1.3	1.2	3.7	1.8
適 正		79.7	81.4	82.3	80.1	83.0	82.4	83.9	82.3	78.5	82.4	85.3	86.6	86.5	90.2
過 剰		16.4	14.1	13.4	16.0	13.7	13.9	15.0	15.4	19.2	16.5	13.5	12.2	9.8	8.0
D . I .		-12.4	-9.6	-9.1	-12.2	-10.4	-10.2	-13.9	-13.1	-16.9	-15.3	-12.2	-11.0	-6.1	-6.1

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
期別 種別		17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		3.2	2.0	1.9	3.3	4.7	3.5	4.0	3.3	6.7	2.1	2.2	4.5	3.0	2.9
適 正		84.5	85.0	90.4	88.2	88.6	91.6	86.1	88.0	87.2	89.4	87.6	85.8	90.2	92.6
過 剰		12.3	13.1	7.7	8.6	6.7	4.9	9.9	8.7	6.0	8.5	10.2	9.7	6.8	4.4
D . I .		-9.0	-11.1	-5.8	-5.3	-2.0	-1.4	-5.9	-5.3	0.7	-6.3	-8.0	-5.2	-3.8	-1.5



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、20年4～6月期は▲8.4となった。前期、D.I.は▲10.2と二桁台となり、過剰感が増加していたが、今期はやや低下した。先行きについても、過剰感は低下している。業種別に見ても、製造業、非製造業ともD.I.は低下してきている。
- (2) 20年4～6月期、業種別では、百貨店・スーパー、窯業土石、電子部品製造の過剰感が増加している。木材業は改善、高岡銅器も改善している。先行きについても、今期と同じ業種が高いポイントを予想している。

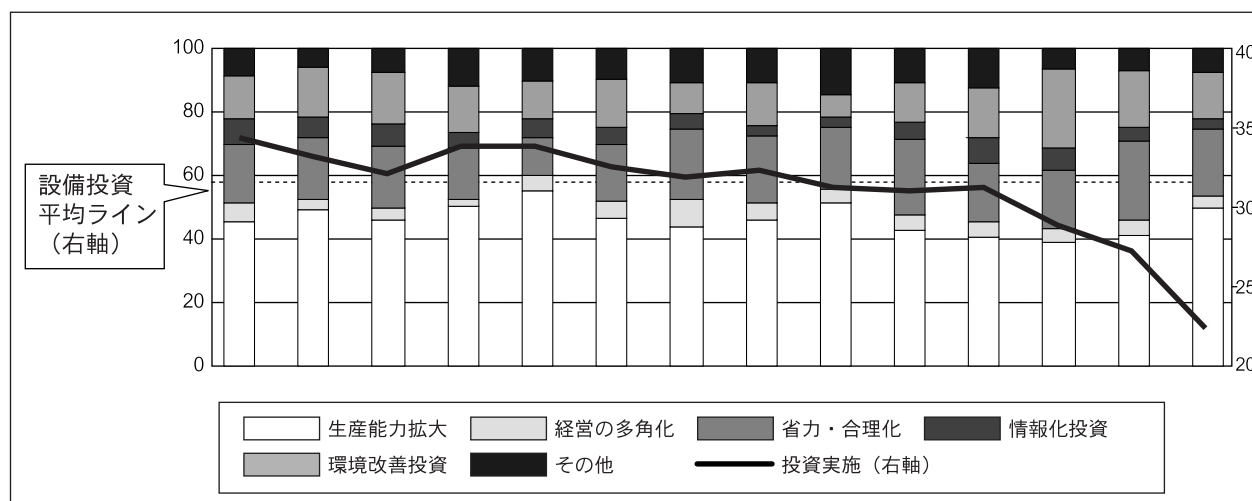
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

		(%)												見込	予測
期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年				
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	
投資実施	34.3	33.1	32.0	33.7	33.7	32.4	31.8	32.2	31.4	30.9	31.1	28.8	27.1	22.3	
投資せず	65.7	66.9	68.0	66.3	66.3	67.6	68.2	67.8	68.6	69.1	68.8	71.2	72.9	77.7	

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	45.4	49.3	45.8	50.4	55.1	46.6	43.8	46.2	51.6	42.6	40.4	38.7	41.0	50.0
経営の多角化	5.7	3.0	3.8	2.2	5.1	5.3	8.5	5.4	4.1	4.9	5.3	4.7	5.0	3.7
省力・合理化	18.4	19.4	19.8	16.1	11.8	18.0	22.3	20.8	19.7	23.8	18.4	17.9	25.0	20.7
情報化投資	8.5	6.7	6.9	5.1	5.9	5.3	4.6	3.1	3.3	5.7	7.9	7.5	4.0	3.7
環境改善投資	13.5	15.7	16.0	14.6	11.8	15.0	10.0	13.8	6.6	12.3	15.8	24.5	18.0	14.6
その他	8.5	6.0	7.7	11.7	10.3	9.8	10.8	10.8	14.8	10.7	12.3	6.6	7.0	7.3



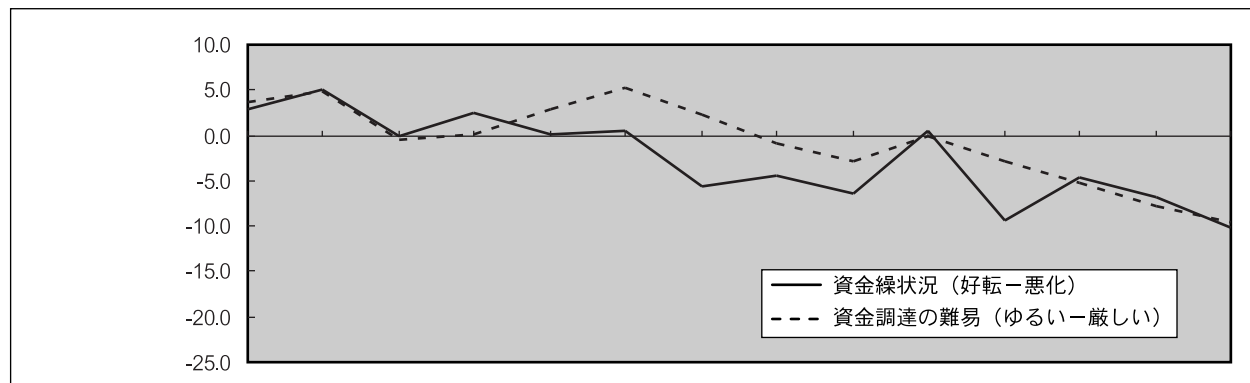
- (1) 20年4～6月に設備投資を実施した企業は全産業の28.8%であった。前期まで30%を上回っていたが20%台となった。先行きについても、20%台であり、低下予想となっている。製造業では35.2%、非製造業22.8%が設備投資を行っている。20年4～6月期に設備投資を実施した企業の投資目的は、生産・販売能力拡大が38.7%次に環境改善投資が24.5%と高いポイントとなった。
- (2) 20年7～9月期に設備投資を予定している企業は全体の27.1%で、今期より低下している。設備投資の目的は、生産能力の拡大がトップとなり、次ぎに省力・合理化となっている。20年4～6月期において設備投資実施企業の割合が高かった業種は、電子部品製造、運輸業機械工業であった。先行きでも、電子部品製造は設備投資を予定しているポイントが高い。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	10.3	11.7	11.0	10.8	9.2	11.0	8.1	6.8	5.9	10.4	7.4	8.5	6.3	5.7
変 わ ら ず	82.4	81.6	77.9	80.9	81.9	78.4	78.1	82.0	81.7	79.6	76.0	78.4	80.6	78.4
悪 化	7.3	6.7	11.0	8.3	8.9	10.5	13.8	11.3	12.4	9.9	16.7	13.2	13.1	15.8
D . I .	2.9	5.0	0.0	2.5	0.2	0.5	-5.7	-4.5	-6.4	0.5	-9.3	-4.7	-6.8	-10.1



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

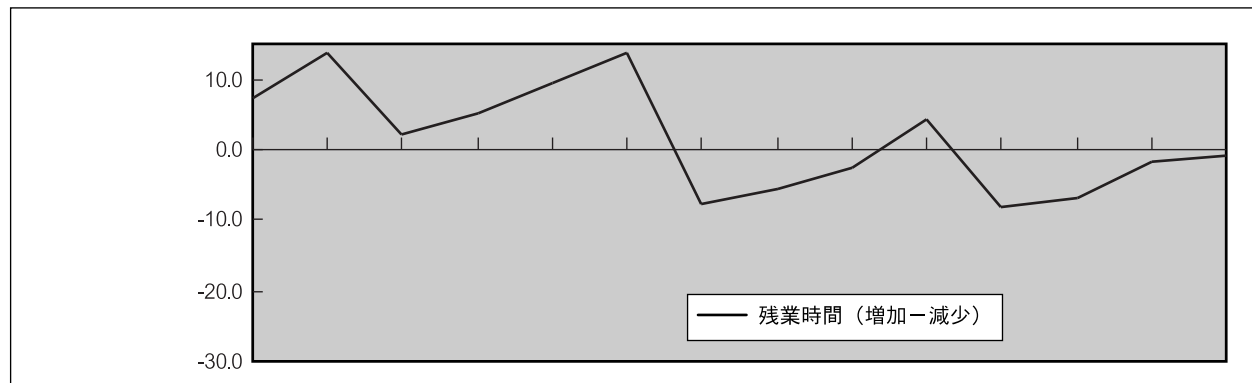
期別 種別	17 年		18 年				19 年				20 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
ゆ る い	14.4	14.1	12.2	11.5	13.2	13.8	13.6	11.6	10.6	10.4	12.2	7.9	7.1	6.3
厳しくない	74.9	76.6	75.1	77.3	76.3	77.8	75.0	76.1	76.0	79.3	72.8	79.0	78.0	77.7
厳 し い	10.7	9.3	12.7	11.2	10.4	8.5	11.4	12.3	13.4	10.4	15.0	13.1	14.8	16.0
D . I .	3.7	4.8	-0.5	0.2	2.8	5.3	2.2	-0.8	-2.8	0.0	-2.8	-5.2	-7.7	-9.6

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は19年からはマイナスポイントとなり、低下している。前期は▲9.3、4～6月期は▲4.7とマイナスポイントであるが、やや改善された。先行きについては、再び悪化予想となっている。
- また、資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においても、20年になってからはマイナスポイントとなり、厳しいとの回答が増加してきている。業種別で、厳しいと感じているのは、宿泊業のD.I.が▲60.0となり最も悪いポイントとなった。次に窯業土石、土木業の順になっている。先行きについても、土木業、宿泊業のD.I.はマイナスであり、資金調達が厳しい状況である。

VIII. 労務事情

残業時間

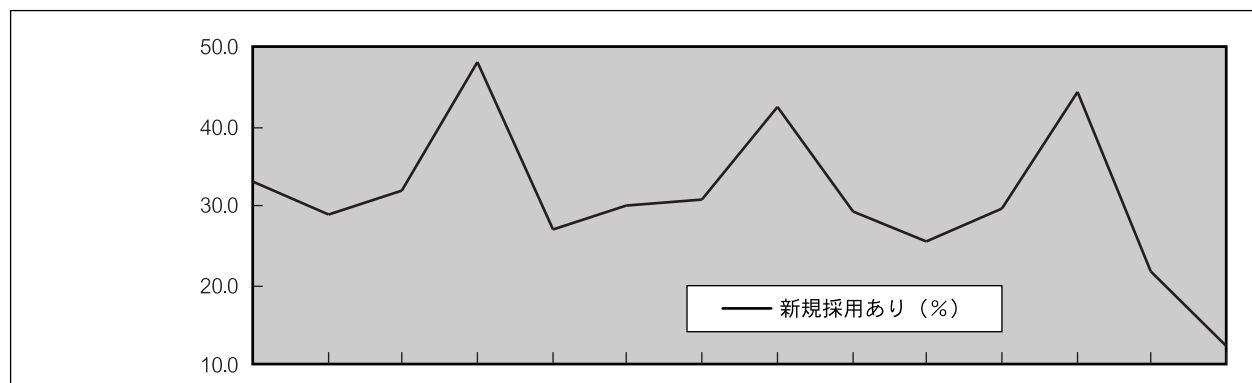
		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
増加		19.1	24.6	19.5	19.4	17.2	22.5	15.6	14.0	15.1	18.7	14.3	12.4	13.5	11.7
横ばい		69.1	64.3	63.1	66.2	75.3	68.7	61.3	66.6	67.2	67.0	63.1	68.4	71.3	75.7
減少		11.8	11.0	17.4	14.4	7.5	8.8	23.1	19.5	17.7	14.4	22.5	19.2	15.2	12.7
D.I.		7.2	13.6	2.0	5.0	9.6	13.7	-7.5	-5.5	-2.5	4.3	-8.2	-6.8	-1.7	-1.0



- (1) 残業時間（増加－減少）D.I.20年4～6月期は前期よりやや増加し、残業が減少した。D.I.は19年からマイナスポイントとなり、残業時間は改善傾向にある。先行きについても、7～9月期は▲1.7と今期に比べ悪化の予想となっているが、マイナスポイントとなっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

		(%)												見込	予測
種別	期別	17 年		18 年				19 年				20 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
全産業		33.1	28.9	32.0	48.2	26.9	29.9	30.6	42.5	29.2	25.6	29.7	44.5	21.8	12.4
(うち製造業)		32.5	29.3	35.5	44.5	25.9	29.9	28.1	41.6	25.4	27.7	30.9	43.2	22.3	13.2
(うち非製造業)		33.6	28.5	28.7	51.5	27.8	30.0	32.7	43.3	32.5	23.7	28.7	45.7	21.3	11.7

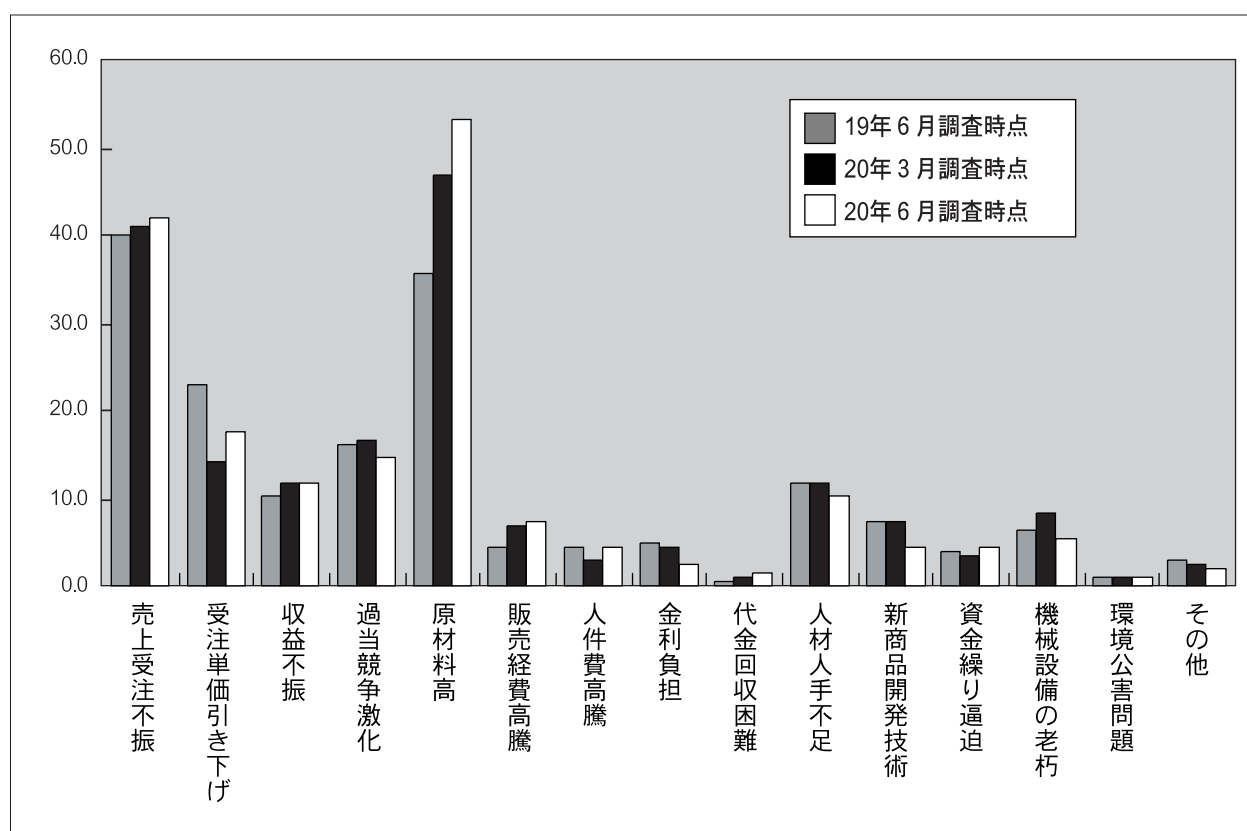


- (1) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について4～6月の採用は全産業とも増加し、44.5%の企業が新規採用を実施している。前年同期に比べ、2ポイント増加している。非製造業では今期45.7%が新規採用を実施した。

IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	19年6月	20年3月	20年6月			前回比増減
	(前年)	(前回)	(今回)	(うち製造業)	(うち非製造業)	
売 上 受 注 不 振	40.1	40.8	42.1	(38.0)	(46.0)	1.3
受注単価引き下げ	22.8	14.2	17.4	(21.8)	(13.2)	3.2
収 益 不 振	10.4	11.5	11.7	(8.4)	(14.8)	0.2
過 当 競 争 激 化	16.1	16.7	14.4	(5.6)	(22.8)	-2.3
原 材 料 高	35.4	46.8	53.0	(64.2)	(42.3)	6.2
販 売 経 費 高 騰	4.2	6.6	7.1	(3.9)	(10.1)	0.5
人 件 費 高 騰	4.2	2.7	4.3	(5.0)	(3.7)	1.6
金 利 負 担	4.7	4.4	2.2	(1.7)	(2.6)	-2.2
代 金 回 収 困 難	0.7	1.1	1.6	(0.0)	(3.2)	0.5
人 材 人 手 不 足	11.9	11.5	10.1	(8.9)	(11.1)	-1.4
新 商 品 開 発 技 術	7.4	7.1	4.3	(7.8)	(1.1)	-2.8
資 金 繰 り 逼 迫	3.7	3.3	4.3	(3.4)	(5.3)	1.0
機 械 設 備 の 老 朽	6.4	8.5	5.4	(6.1)	(4.8)	-3.1
環 境 公 害 問 題	1.2	1.1	1.1	(1.7)	(0.5)	0.0
そ の 他	2.7	2.2	1.9	(1.7)	(2.1)	-0.3



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①原材料高53.0%(前期比+6.2ポイント)、②売上受注不振42.1%(前期比+1.3ポイント)、③受注単価引下17.4%(前期比+3.2ポイント)の順となっている。
- (2) 今回調査では、原材料高を問題点とする企業が更に増加した結果となっている。製造業では、60%以上の企業が原材料高を当面の経営上の問題点としている。
- (3) これを製造業と非製造業に分けてみると製造業では原材料高64.2%、非製造業は売上受注不振46.0%が最も高いポイントとなっている。非製造業でも原材料高が42.3%でありどの業種でも、原材料高が問題点として、高いポイントとなっている。